

話題の  
00H

<190>

## 道頓堀で変身イベント

### 顔認識機能で効果測定も可能

大型ビジョンに映った自分の姿が「ゲゲゲの鬼太郎」に変身。大阪・ミナミの道頓堀にある「トンボリステーション」で通行人の姿を広告画像の中に取込み、広告

キャラクターの顔に変えて放映するプロモーションが、昨年暮れから今年にかけて実施された。これは、同ビジョンを運営する(株)プラネット(湯上三平社長)が、福

岡の(有)しくみデザインが開発した画面に映った人の顔を認識し、加工して遊べるアプリケーションソフト「Photiva(フォティバ)！」を使って行ったイベントで、

従来からあったモニターカメラを使ってビジョン前の人を映し出して顔を自動検出、髪型や服を替え、キャラクターなどに変身させた。

トンボリステーションは、1987年に放電管方式のシステムで放映を始めた大型ビジョンの草分け。いまではLED8

は関西で初めて実施されたJRAの「ジャパンカップダート(GI)」、東映映画「劇場版 ゲゲゲの鬼太郎 日本爆裂」で、ビジョンを見ている人たちを巻き込み、顔を馬面の顔に変身させたり、ちゃんちゃんこを着た鬼太郎の姿に変えていった。プロモーションが始まると瞬く間に人が集まり、訴求効果は高い。ケータイで写真を撮る人も多く波及効果も期待できるといふ。

さらに顔を認識した人の立ち止まって見ていた時間を記録するなど、広告効果測定ができるのも特徴。既存の大型ビジョンにカメラとパソコンの追加だけで済むため、訴求力アップのアイテムとして導入が期待されている。

通るミナミの顔として親しまれている。広告映像に加え、音楽・映画の情報、相撲や野球、オリンピックの中継、占いやクイズなどのほか、毎日行う生番組の放映でも話題になっている。

今回のプロモーション

ト  
【問い合わせ】(株)プラネット  
☎06(6241)0781



トンボリステーション(上)、トンボリリバーサイドビジョン(下)を使ったプロモーション